

重点目標	評価計画			自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策
	具体的目標	具体的取組事項	評価指標	評価	取り組み状況と課題	評価	意見	
多様な人との関わり場を設ける	地域と連携した教育活動を推進する	まちキャン、ふるさと学、ユネスコ推進事業（石見銀山保全活動）、インターンシップ、地域行事への参加、地域清掃活動	評価アンケート	B	QSE+：「地域」生徒93(昨年87)%、保護者78(昨年82)%。ふるさと学1年ガイドブック作成、2年サロン運営。人文・自然コースも短期インターンシップ実施。外部団体主催「マイプロジェクト」を含む生徒の自主的な活動。	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒を受け入れることに関して、志願者が増えてきているのが良い傾向だ。今後も志願者が増えていくことを期待する。 地域と連携した教育活動、部活動や体験活動も充実しており、全体として生徒や保護者の評価も高い。今後も引き続き取組を進めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> まちキャン、ふるさと学、ユネスコスクール活動の一層の充実を図る。 地域の活動についての情報を生徒に提供し、積極的な地域交流を支援する。 引き続き生徒募集に積極的に取り組んで行く。 生徒の半数を占める寮生の生活保障や学習支援の積極的な改善に一層取りくんでいく。
	部活動、学校行事、体験活動を充実させる	部活動充実、学園祭充実、生徒会活動支援、地域系部活動充実、マイプロ支援、中高連携授業、国際交流活動、PTAと連携した行事、三瓶研修、クラス活動	評価アンケート、部活動加入率、大会成績	B	QSE+：「部活動」生徒85(昨年84)%、保護者88(昨年86)%。部活動加入率95.4(昨年93.6)%。カヌー国体・全国総体入賞、自然科学・写真全国総文祭出場。地域系や家庭クラブ、生徒会等大半の生徒が課外活動参加。QSE+：「行事」生徒75(昨年72)%、保護者82(昨年85)%。災害ボランティア参加。中学校と交流学习。県立大留学生と交流学习。			
	広い地域から多くの生徒を受け入れる	生徒募集、学校案内・DVD作成、女子生徒確保の方策、オープンスクール、学校説明会、中高連絡会、部活動説明会、学校見学者対応、寮生対応、罹病時対応、環境整備、まち親さんとの交流	評価アンケート	B	オープンスクール75(昨年64)校201(昨年236)名参加。県外生徒募集に合わせ現地保護者面談、地区PTAを実施。QSE+：「情報」保護者78(昨年78)%。フェイスブック週1～2回更新、マチコミメール活用等情報発信。QSE+：「寮」生徒73(昨年70)%、保護者92(昨年92)%。			
豊かな人間性と社会性を養う	多様性を認め、自他を尊重する意識と態度を育てる	人権同和教育LHR、生徒じんけん教育推進委員会支援、人権教育講演会、教職員研修、関係作り、学級作り、いじめ防止、命の大切さ指導、入学時指導・支援、授業環境作り、寮生指導	評価アンケート、人権意識調査	B	QSE+：「人権教育」生徒87(昨年91)%、保護者57(昨年70)%。LHR1年2H、2年3H、3年2H実施。講演会(人権教育・人権を考える集い)、生徒じんけん委員会参画。「命の大切さを学ぶ教室」。人権調査(友人関係は良好、自己肯定感は低い)	B	<ul style="list-style-type: none"> 健康支援に関して、支援があまり十分でないように思う生徒がいるようなので、生徒の病気や怪我に対する対策とともに適切な支援についてお願いしたい。 集団としての規律に関しては、教員の印象はやや不十分なようだが、全体としては概ね達成していると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒サポート委員会の情報を全教職員に知らせるなど、教員間で情報を共有して適切な生徒理解と指導・支援を行う。 学級の副担任を2人制とし、生徒を多くの教員で対応するなど、相談しやすい体制作りを検討する。 保健部の教員や養護教諭が不在の時の傷病や怪我の対応について全教職員で対応するように教職員に周知する。 寮生の罹病時の対応を検討する。 授業規律の確保や生活指導について全教職員で共通認識を持ち共通指導する。
	生徒理解を深め、適切な指導・支援を行う	生徒サポート委員会、各種アンケート(QU、学校生活)、人権意識調査、個別面談、SCとの連携、教職員研修(情報共有・特別支援)、健康観察	評価アンケート	B	生徒サポート委員会週1計31回開催。QSE+：「教員との相談」生徒80(昨年79)%、保護者78(昨年80)%。QU教職員研修。学校生活アンケート学年集会。QSE+：「健康支援」生徒71(昨年78)%、保護者78(昨年86)%。生徒傷病対応118件。寮生インフルエンザ予防接種実施。月2回SC実施、希望者多数。			
	集団としての規律を保ち、よい習慣を身につけさせる	挨拶・服装・交通指導、ふるまいや言葉遣い指導、清掃指導、情報モラル・薬物乱用防止指導、寮生指導、自主的な寮運営。朝読書、授業終了の礼法、授業規律の確保	評価アンケート、出席率、皆勤率	C	QSE+：「規律指導」生徒81(昨年80)%、保護者78(昨年82)%。挨拶良好。服装等継続指導。整理整頓や持ち物管理できない生徒多い。授業規律にも課題。朝読書2週間に延長し3回実施。出席率98.3(昨年97.6)%、皆勤率45.6(昨年49.4)%。			
自ら未来を切り拓く力を育てる	「生徒が育つ授業」を進めながら学力の育成を図る	授業改善、授業研究、教科研修、校内外研修、新学習指導要領への対応、ICT活用、学習時間調査、授業評価アンケート、模試分析、業者説明会の情報提供、学習サポート、補習授業、各種模試、自習教室の開放	評価アンケート、家庭学習時間調査	C	QSE+：「授業」生徒80(昨年79)%、保護者71(昨年66)%。全科目で新指導要領に応じた研究授業を実施。ICT活用、学力育成の研修実施。試験期間中の学習時間は平均157(昨年150)分。学習習慣の確立、学力の育成、学習への意欲が課題。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の自己評価は厳しい。多くの取組を行ってもらっている。 生徒の希望職種が保護者の感覚と異なってきている。進路に関する適切な情報が保護者に伝わるようにして欲しい。 学力伸長のため平日の学習習慣が身につくように指導して欲しい。 3年次に学力不足のため進路希望を変更する者がいる。早い時期から学習に関しての危機感を持たせて欲しい。 生徒に進路希望をしっかりと持たせて、学習に取り組ませて欲しい。 進学ゼミのような勉強をする取組に一層力を入れて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領や新しい大学入試に対応した教育課程を研究し、授業参観や授業研修を実施し、授業改善に取り組む。 学力の育成について授業内容や補習のあり方など方策を検討する。 学習課題の教員間での周知など、家庭学習習慣の定着を図る取組を強化し、全教職員で取り組む。 生徒の進路意識を高めるために、進学ゼミの活動内容を充実させる。進学ゼミを進路指導部の業務に位置づけ、生徒の進路実現に向けて組織的に取り組む。 面談を通じて生徒一人一人に応じた進路選択ができるように支援する。 進路に関する適切な情報発信に努め、保護者と協働した生徒の育成を心がける。
	将来の目標を持たせ、その達成に向けて取り組ませる	進学ゼミ強化、個別指導、面接・小論文指導、大学・企業訪問、進路ガイダンス、講演会、先輩講話、進路希望調査、大学入試改革への対応、進路別に意識を高める指導、コース科目選択への指導、進路学習LHR	評価アンケート	C	QSE+：「進路情報」生徒79(昨年79)%、保護者69(昨年77)%。進路行事をPTAと共催実施。保護者への情報提供が必要。進学ゼミ強化(県外研修・勉強合宿・補習実施・模試の事前事後指導・夢チャレ参加・学習ルーム整備)。			
	一人一人の個性を生かしたキャリア教育を推進する	総合的な学習の時間、キャリア教育の体系化・計画的な実施、大学との連携、個人面談、個性を生かした進路指導、進路検討会、コース選択検討会、生徒レポート	評価アンケート	C	QSE+：「満足感」生徒75(昨年77)%、保護者94(昨年92)%。キャリア教育全体計画作成(教科指導・特別活動・総合的な学習の時間等を通じて生徒を育てる3年間を見通した計画)。教員間の共通理解を図ることや生徒の成長の段階的な評価が課題。			